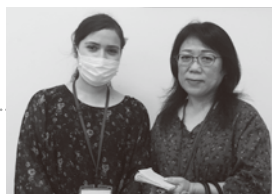


今、この人に **いんたびゅう** Interview

医療通訳(彦根市立病院)

多菊 エリカさん



▲同じ医療通訳の上地ミユキさんと

私にとって彦根は第二の故郷になっています。
日本人との交流機会を増やし、もっと理解し合いたいですね。



■多菊さんが滋賀で医療通訳になったきっかけは何ですか？

島根県の出雲市の工場で通訳や翻訳の仕事をしていましたが、2008年のリーマンショックの影響を受けて仕事を失いました。ハローワークで介護福祉士を勧められ、2年間の講座を受けて資格を取得後、しばらく老人施設で仕事をしましたが、通訳の仕事が好きで慣れていたため、出雲市役所でポルトガル語通訳としての仕事を再び始めました。ただ、市役所での契約更新が難しくなり、他の通訳の仕事を探していたところ、滋賀県での医療通訳の求人を見て興味を持ちました。それで彦根市立病院で働くことになり、現在に至ります。

■医療通訳という専門分野に飛び込んだのはなぜですか？

介護福祉士の資格を取るために実習に行った施設で、ブラジル人のご高齢の方がおられました。日本語を理解することが出来なくて、娘さんが通訳をしていました。この時、外国人には言葉の支援が必要不可欠だと思ったんです。その経験から、介護福祉士資格取得の際に教わった知識を医療現場で通訳者として生かしたいと考えました。

■医療通訳として心掛けていることは何ですか？

病院に来る外国人患者は、日本人と一緒に、何かの体の不調、病気をお持ちで治療を求めています。それは介護施設の利用者さんへの向き合う姿勢と一緒にですね。私は利用者さんと話しをする時は、相手の言葉を否定しないこと、共感することを心がけていました。外国人患者も同じで、患者の気持ちを知る姿勢、症状の訴えを正確に把握し、その患者の症状を正確に医師に伝えることが必要なんです。通訳者が言葉の不自由な患者の代弁者となり、医師とのコミュニケーションをより

良くすることが、外国の方への援助に繋がっていると思っています。

■患者さんの精神的なサポートにもなっているんだと思うのですが、具体的にはどんなことがありますか？

患者さんの症状を知ること以外に、既往歴を含め、患者さんのこれまでの経緯など、全体的に相手を知ることが大事だと思います。工場内での長い作業で、精神的なストレスを抱え、メンタル的な支援が必要な方が増えてきています。私たちは専門的な知識は持っていませんが、聞き手になって相手の話を聞くことで、少しでも安心させることに努めています。病気が発見された時、治療が必要な時、励ましの声かけをしたり、病気の状態が望ましくない時には心が穏やかになるような言葉を使って慰めたり、勇気づけることもあります。

■医療通訳のやりがいとは？

泌尿器科から消化器内科まで、色々な科が病院内にあり、幅広い専門用語が求められます。ネットで検索したり、看護師や医師に説明を聞きに行ったり、毎日が勉強で大変ですが、通訳者がいることで患者の意思を伝えられ、治療出来ること、また本人、医師や医療スタッフが納得すること、笑顔を見ることにやりがいを感じます。

■医療通訳をしていることで、気がついた現状や今後の課題はありますか？

滋賀県の病院に医療通訳が少ないことですね。通訳がいないから、「病院に行かない」と言う方もいます。日本で働く外国人の数は年々多くなって来て、雇う側はただ利益を求めるだけでなく、働く側の健康を守ることで利益に繋がるということをもっと考えて欲しいです。さらに、1980年代から始まった出稼ぎブームの当時の日系人たちは日本人と一緒に高齢化しています。通訳のいる老人施設が必要になってくる時代がすぐそこまで来ていると感じています。

▲「ブラジルでは日本と違い、患者が高度な検査を求めれば、病院側は応じることが多いです。ですから、検査できないことで患者が不安がった時には、医師に患者の意思をわかりやすく伝えていきます。」

●プロフィール●

1991年に県費留学生として日本に来日。新潟大学で日本史の勉強をするつもりだったが日本語が難しく、日本語学校に入学。その後、派遣会社でポルトガル語通訳として働き、日本とブラジルを行き来する。2006年に島根県の出雲市にある工場でブラジル人従業員のための翻訳や通訳を行いサポートする仕事に従事。11年に介護福祉士を取得後、再度、通訳の仕事に復帰。13年に彦根市立病院の医療通訳者となり、外国人を支援している。

また、このコロナ禍で立場の弱い外国人労働者は契約切れになっているので、企業や行政からの支援も必要だと思っています。

■ブラジルで暮らしていた頃の日本と、実際の日本のイメージは違っていましたか？また、滋賀県の印象をお願いします。

日本はお金持ちの国だと思っていましたが、驚いたのは東京や大阪に行った時にホームレスがいたことです。滋賀県については、大阪や名古屋に比べて田舎だと思いました。特に電車やバスが少ないですね。でも、工場が多く、外国人が多く集まって来て、通訳の仕事が欠かせない地域だと思っています。特に彦根は私の仕事の間でもあり、好きな所となりました。色んな方と話が出来て、広い琵琶湖がそばにあり、観光地でもある彦根は暮らしやすく、彦根城の桜を見ることがなによりの楽しみです。私にとってここは第二の故郷になっています。日本に来ている外国人はみんな私と同じです。日本人と交流機会を増やし、もっと理解し合うことが出来ればいいと思いますね。